初等教科教育法（算数）　　森田 大輔

※実務経験のある教員による授業科目：単位数２

授業概要

本授業では，学校教員の実務経験を活かし、小学校算数科の目的・目標，学習指導や評価の方法について講義する。特に，学生自身の経験とこれからの時代に求められる教育とを照らし合わせながら，資質・能力の育成を主眼とした算数指導のあり方について理解が深まるよう講義する。その際，必要に応じて，適宜アクティブ・ラーニングを導入することで，実体験を通して講義内容の理解をより深めるよう努める。

また，本授業の後半では指導案の作成や模擬授業の実施・協議に取り組む。グループワークやディスカッションといった協働を通して，算数科における授業研究（指導案作成，研究授業，研究協議）を模擬的に体験し，授業づくりの方法を指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：自身の学習経験の省察
第 2 回	算数教育の目的
第 3 回	算数教育の目標の変遷
第 4 回	算数科における資質・能力の育成：数学的な見方・考え方と数学的活動
第 5 回	算数科における授業づくりの理論①：問題解決
第 6 回	算数科における授業づくりの理論②：多様な考えを生かす指導
第 7 回	算数科における授業づくりの理論③：オープンエンドによる指導
第 8 回	算数科における授業づくりの理論④：問題の発展的な指導
第 9 回	算数科における学習の評価：指導と評価の一体化
第 10 回	算数科における ICT の利活用：GeoGebra，Scratch を中心に
第 11 回	算数科における教材・教材研究：教科書比較を中心に
第 12 回	指導計画・指導案の作成
第 13 回	模擬授業の実施・協議①
第 14 回	模擬授業の実施・協議②
第 15 回	本授業のまとめ：授業研究を通した授業改善
第 16 回	筆記試験

到達目標

- 算数教育の目的および小学校算数科の目標を理解することができる。
- 小学校算数科における授業づくりの理論や実際を理解することができる。
- 小学校算数科における評価の役割や方法を理解することができる。

履修上の注意

- 第 12 回以降の授業では，グループで協力して，模擬授業で用いるもの（指導案，掲示物等）を予め準備すること。
- 授業開始から 20 分経過後に入室した学生は遅刻とみなす。なお，公共交通機関の遅延による遅刻はその限りではない。２回の遅刻で１回分の欠席とカウントするので，注意すること。

予習・復習

- 予習：テキストの該当箇所を読む，模擬授業の準備
- 復習：授業で学んだことをノートにまとめる，模擬授業の省察

評価方法

- リアクションペーパー(20%)
- 学習指導案・模擬授業(40%)
- 筆記試験(40%)

テキスト

- 教科書名：小学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）　算数編
- 著 者 名：文部科学省
- 出版社名：日本文教出版
- 出 版 年（ISBN）：2018 年(978-4-536-59010-5)

その他，必要に応じて，文献や資料を示す。